

「総合的な学習の時間」モデル事業中間報告書

(モデル校名 山形県東置賜郡高畠町立第四中学校)

○学校の概要(平成15年4月現在)

| 高畠町立第四中学校 | | | | | | |
|-----------|----|----|----|------|-----|-----|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 特殊学級 | 計 | 教員数 |
| 学級数 | 2 | 2 | 2 | 1 | 7 | 15 |
| 生徒数 | 65 | 78 | 76 | 2 | 221 | |

1. 本年度当初の課題

- (1)総合的な学習の時間の目指す生徒像に学校全体でせまるための全体計画・年間計画の整備。
- (2)総合的な学習の時間に関して小中の交流や調整が進んでおらず、内容の重複やレベルの逆転などが起こる可能性があるため、段階的に深化・発展していく学習課程の編成。

2. モデルとしての目標設定

(1)小中の連携や地域人材との連携

- 小中合同研修会を行い、授業実践の交流を通して、双方の課題や両校共通の課題、生徒の様子等の情報交換等を行う。
- 小中学校9年間を見通したカリキュラムの編成を行う。
- 専門的な知識や技能を幅広く教えていただける地域の外部講師にご協力いただき、「地域で育つ、地域で育てられる」ことを大切に継続的な学習を目指す。

(2)環境教育について。

本校独自の「環境」をテーマをとした学習を進めるとともに、高畠町の環境教育構想を受けた学習活動の推進を図る。

3. 本年度の取り組み及び成果と課題

(1)○全体計画・年間計画の見直し整備を図った。

- 小中担当者による情報交換を行い、連携して取り組める内容についての方向性を探った。

(2)本年度の成果と課題

- 総合的な学習の時間の全体計画・年間計画を見直し整備を図ることで、生徒への指導・支援をスムーズに行えることが多くなった。さらに、生徒の評価について改善を図り、よりよい実践につなげる。
- 地域との連携を積極的に進めることにより、地域の方々と生徒との関わりがより密になってきており、「地域で育つ、地域で育てられる」教育の成果が実ってきている。
- 小中の互いの計画等については交流を図ることができたが、具体的に9年間を見通したカリキュラム作りを視野に入れた連携を今後図っていく。

4. 平成16年度の取り組み

モデル事業の柱である①小中学校の連携という視点と、②環境学習を切り口とした学習活動の実践という視点から、次のような点での見直しを考えている。

- (1)小中連携では、9年間を見通した教育課程の編成を行う。そして、お互いの実践を交流し、地区内にある生涯学習館などで地域の方々との交流も図りながらの発表会など、効果的な形態を模索する。
- (2)環境学習については、教科学習をベースとした実践の取り組みを計画している。具体的には、家庭科や保健体育、理科、社会などの教科学習内容を基盤としながら、「ゴミ」「エネルギー」等の問題について、学年毎に段階的に進化発展する学習課程編成に取り組む。
- (3)総合的な学習の時間の評価について、15年度の実践をふまえ全体計画の改善を図る。

学校教育目標

- 「生きる力の創造と豊かな自己実現をめざして努力する生徒」
- (1) 生きる力の創造をめざし真剣に学ぶ生徒 (創造)
 - (2) 自主・自立をめざし進んで行動できる生徒 (自立)
 - (3) 心身共に健全で思いやりのある生徒 (友愛)

総合的な学習の時間で育てたい力

- 自分の生活の中から、よりよい生活をするための課題を見出し、解決していこうとする態度や能力を育てる
- 共に活動し、学び合う中で、仲間を大切にし共に成長する喜びを分かち合うことのできる態度を育てる。
- 各教科等で身に付けた知識・技術等を生かして課題を解決する力を養わせ、自らの生活を豊かにしようとする生徒を育てる。

高島町の環境学習

- 体験を通して町の自然や生活環境に目を向け、課題意識を持たせる。
- 環境にやさしいライフスタイルを実践する態度を養う。



各領域の「総合的な学習の時間」の目標

表現

- ① 自分や自分を取り巻く社会に関心を持ち、課題を発見することができる。
- ② 課題について自分なりの方法や手段を用いて表現しようとする。
- ③ 自分の考えや思いをうまく表現できる。

各学年のテーマと領域(内容)

- 弁論：自分の考えをまとめて発表しよう
- ・課題を見つけ自分の言葉で文章にまとめる
 - ・思いが伝わる表現を工夫し、豊かに表現できる
- 演劇：協力し合い総合芸術の演劇を創りあげよう。
- ・各自の役割立場を深く追求する。
 - ・役割間の調整をしながら舞台を一つにまとめる。

地域

- ① 地域の一員として活動に参画し、中学生としてできる課題や役割を設定することができる。
- ② 自分で選択した仕事・役割を、創意・工夫してやり遂げることができる。

地区運動会：地域の一員として運動会づくりに参画しよう

- ・企画委員会への参加
 - ・運動会を豊かにするために仕事・役割を設定・選択して、内容や方法に創意・工夫を凝らす
- 地域文化講座：地域の方々から学ぼう
- ・文化的内容を、自ら講座を選択して学ぶ

環境

自然環境・社会的環境に関わる問題点を知り、自然との共存やよりよい生活送るための方策を探る能力や態度を身に付ける。

環境：グリーン・コンシューマーになろう

- ・農作物を育て、食や農業について考える
- ・ゴミやエネルギーの問題から、自分の生活を振り返り、生活と環境との関わりを見つめ直す。

国際理解

- ① 関心のある外国について課題を設定してその国について深く学習を進めることができる。
- ② 諸外国の生活や文化について学び、日本と比較することにより、意欲的に国際社会へアプローチしようとする態度を身に付ける。

国際理解：異文化交流を通して、視野を広げよう

- ・英語圏の人たちと、メールや手紙などのやりとりを通して、交流を深める。
- ・英語での交流を通して、改めて日本の文化を学び、その特徴を意識する。
- ・広い視野に立って、日本だけではなく諸外国の状況や抱えている様々な問題に目を向ける。

小中(高)連携の具体的視点

- ・ 9年間を見通した、カリキュラム作りと実践(国際理解・環境)
- ・ 地域の講師や施設を活用した取り組み
- ・ 児童生徒理解に基づく継続的な指導・支援